

令和7年度 第1回福部地域振興未来会議 議事概要

- 日 時 令和7年5月16日（金） 9：00～10：20
- 会 場 福部町総合支所 2階 第2・3会議室
- 出席委員 岩崎幸子、上山弘子、宇山英俊、加藤美幸、岸本正枝、谷口孝義、中川玄洋、中島幹夫、西尾祥幸、西田一幸、濱田 香、松田浩稔（順不同敬称略）
- 事務局 米澤支所長、福山副支所長兼地域振興課長、瀬戸川産業建設課長、水戸口市民福祉課長
山田地域振興課長補佐、多賀主任（地域振興課）

1 開 会

2 自己紹介

3 会長、副会長の選任（委員の互選により選任）

会 長・・・上山委員

副会長・・・中川委員

4 議 題

(1) 鳥取市景観計画改定に向けた取組について（都市整備部都市企画課：三谷主査、竹内技師）

～資料に沿って説明～

計画策定から15年経過した「鳥取市景観計画」の改訂を進めており、各総合支所において新たな重点区域候補地の抽出について説明。

【都市企画課】福部地域には鳥取砂丘等があるが、鳥取砂丘は自然公園法で指定している区域であり、景観法の上位となるため、鳥取砂丘周辺を除いた地区を抽出していただきたい。

【委 員】 最終的に1つに絞らなくてはいけないのか。

【都市企画課】他の地域では複数の候補地が挙げられている。

【委 員】 景観を残していくにはコストが発生すると思うが、その予算は鳥取市が対応するのか。

【都市企画課】景観を守っていくためには、各地域で維持管理が必要となってくるが、本市での予算対応は難しい。

他地域の城下町を例に挙げると、（合併前に）景観ガイドラインを策定し、各町内ごとにまちづくり協定を締結。その協定の趣旨に基づいて建物などを新築、改築、修繕等される場合、該当する補助金要綱に沿って補助金を交付したのものもある。これから抽出していただく地域については、次回の未来会議でご提案いただき、また積極的にまちづくりを行っている地域があれば、そこもお聞かせいただきたい。

(2) 地域振興未来会議について

地域振興未来会議の設置目的、所掌事項、委員の任期等について説明（事務局）

(3) 福部未来プラン及び年間スケジュールについて

●福部未来プランについて

【事務局】策定の目的としては、鳥取市新市域振興ビジョンが令和5年度末で計画期間が終了となり、新市域における地域振興の計画を策定する必要があったため、この度、各支所において地域未来プランを策定した。これまで、福部地域と青谷地域は、独自の計画を策定しており、それを未来プランに移行する形で、令和7年度から令和11年度までの5年間で計画を進めていくプランとなっている。いつまでも住み続けられるまちを目指し、実施計画に沿って進捗管理を行いながら事業を推進していくので、皆様のご協力をお願いしたい。

また、新たな会議体を設けて検討をしていくものもあり、この地域振興未来会議で協議を行う内容もあるので、皆様からご意見等をいただきながら進めていきたい。

●令和6年度鳥取大学地方創生プロジェクトについて

【事務局】令和6年10月に鳥取大学の学生2名を皆様にご紹介したが、令和6年度鳥取大学地方創生プロジェクトで、鳥取大学の学生が地域の活性化について考えてくださった成果品についてご紹介する。

「魅力満載！砂丘ライドプロジェクト」

- ・福部町では砂丘エリアに多くの観光客が訪れる一方、その他の地域では閑散とした場所が多いほか、移動手段がないことに着目。
- ・しまなみ海道サイクリングをモデルに、「砂丘ライドコース」を提案。砂地・山道・アスファルトを走行できるファットバイクを用いて福部町の様々なスポットを巡る。また、福部駅と鳥取砂丘にそれぞれ貸出・返却ターミナルを設置し、利便性の向上を図る。
- ・このコースを用いたファットバイクレースやスタンプラリーを提案。
- ・砂丘ライドを行うメリットとして、自然満喫、環境保全などが挙げられた。

このプロジェクトでは、6自治体で6チームの学生が企画・提案したプロジェクトを発表する学習プログラムとなっている。

成果発表では、福部地域は上位入選にはならなかったが、福部地域の振興に取り入れていきたい。

【会長】福部地域未来プランの冊子については、大変見やすく、分かりやすい内容でよく出来ていると感じた。実施計画については、新たな会議体も発生するようなので、ぜひご協力をいただきたい。

鳥取大学地方創生プロジェクトについては、ファットバイクが前提の話となっていて、砂地も走行できるといったことから、福部町内を回するにはファットバイク1台あればよいといった話であると思う。

昨日、福部駅で降りてもバスが来ないと支所に問い合わせがあったようだが、多くの観光スポットはあるものの、それを全て網羅するための移動手段等について考えていく必要がある。若い方はこういった考えを持っているのだと感じさせられた。

【委員】（移動手段について）今も福部町総合支所にレンタサイクルは置かれているか。

【事務局】レンタサイクルについては、福部町総合支所において令和6年7月～11月まで、4ヶ月の期限付きで実証実験を行った。6台の稼働があり、今回の大学生のプロジェクトにも取り上げていただいた。今後、福部駅の在り方についてJR等の関係団体を交えながら検討を進めたいと考えており、このようなレンタサイクルの実験結果や、大学生の意見などをしっかり取り入れ、今後の福部駅の在り方を考えていきたい。

●福部駅を活かした地域の活性化について

【委員】昨年度の地域未来づくり懇談会の中で、らっちゃんバスが町内の人しか利用できないなどの課題があり、対象範囲を広げること、運行ルートを砂丘の方まで延伸することを検討しているとのことだが、詳細についてお尋ねする。

【事務局】昨年度の地域未来づくり懇談会を区長会の主催で行い、市の幹部も参加し、色々な議論をさせていただいた。そこで挙げられた案件を実行に向けて今年度は動いていく予定である。

らっちゃんバスについては、令和6年度末に行われた生活交通会議の中で、路線やダイヤの見直し等について議論をした。これまで、福部地域の人しか乗れなかった乗車範囲を観光客の方も乗れるよう見直していただき、運行ルートも鳥取砂丘まで延伸することを検討している。間もなく、観光客が砂丘方面から乗車し町内を回る、福部駅から砂丘方面へ向かって人が流れていくことが実現するような運びとなっている。

県の事業として、福部駅前にある塩見川の河川改修工事が令和9年度末に完了する予定となっている。そのタイミングで、福部駅前の周辺整備について、どういった機能が必要か、ご意見をいただきながら取り組んでいきたい。

【委員】らっちゃんバスの本数が少ないので、JRのダイヤに合わせた時刻表に修正していただくことを検討していただきたい。

鳥取市内でもタクシー配車アプリ「GO」に対応しているので、新たな事業を作るのではなく、タクシー事業者と連携し対応できるようにすれば、現時点では少ない対応台数が観光客と繋がることにより、台数が増えると思う。タクシー事業者と連携し、観光客が駅から降りた際、配車アプリが利用可能な事を周知できれば良いと思う。

●年間スケジュールについて

【事務局】支所内で行われる年間の行事等を考慮し、年6回の開催を考えている。

(4) 福部町総合支所組織図及び担当業務 [R7.4.1] について

資料に沿って説明（事務局）

(5) 令和7年度総合支所当初予算について

【委員】県道なので鳥取市ではないが、砂丘トンネルを通過した道路周辺の木が垂れ下がっていたり、街路樹や道路脇の雑草など、景観が気になる。毎年、除草作業をされているのは承知しているが、観光シーズンと噛み合っていないので、観光客が来る前に実施していただけるよう要望していただきたい。

【事務局】鳥取県へ要望していきたいと考えている。

【委員】「砂丘温泉ふれあい会館」、「鳥取砂丘砂の美術館」の現在の指定管理者を教えてください。

【事務局】「砂丘温泉ふれあい会館」は株式会社エヌ・エス・アイ、「鳥取砂丘砂の美術館」は鳥取砂丘砂の美術館活性化共同企業体(代表:株式会社イズミテクノ)が現在の指定管理者。

【委員】「人材誘致・定住促進事業費(空き家運営経費)」、「多鯨ヶ池周辺整備補助金」について内容を教えてください。

【副会長】空き家運営経費については実施主体ということで私がお答えする。
空き家調査や、区長会を通じてチラシの配布を行っている。また、電話での問合せもあり、その対応を行っている。

【事務局】「多鯨ヶ池周辺整備補助金」については、多鯨ヶ池に木道を対岸まで繋げる整備が行われている。浜湯山・多鯨ヶ池活性化委員会が取り組んでおられる事業で、鳥取市が補助金(県間接補助)を交付している。

5 その他

【事務局】

「山陰近畿自動車道の新インターチェンジの設置」について

今の現状について報告する。これまで要望を続けてきたが、

- ・令和6年9月の鳥取県の回答では、「駟馳山バイパス福部インターチェンジから大谷インターチェンジ間の新たなインターチェンジの整備については、鳥取市が中心となり検討を進めている地域のまちづくり構想において、インターチェンジの利活用に関する関係者の具体的な検討状況を踏まえ、事業主体を含めた今後の進め方を、国土交通省や鳥取市と引き続き協議を進めていきたいと考えています。」と回答をいただいている。
- ・令和6年12月の自民党要望について、国土交通省から、「駟馳山バイパスは難所である国道9号駟馳山峠の迂回や岩美町等からの救急搬送、山陰海岸ジオパークを軸とした広域的な観光連携の強化などを目的に、平成26年3月に全線開通したところです。開通後、並行する現道区間の通行車両はバイパス利用に転換しており、整備効果が発現していると認識しております。引き続き、関係自治体等で、地域の課題、今後の計画、整備効果等について検討いただきたいと思いますと考えております。」と回答をいただいている。

また、鳥取県からは、「インターチェンジの整備は、まちづくりの構想等を踏まえながら鳥取市や国土交通省と連携して検討する。」と回答をいただいている。

- ・鳥取市長が鳥取県知事へ直接要望する機会があり、各部の要望を取りまとめ、鳥取県へ要望を行う。その中の重点項目として、これまで新インターチェンジについて継続要望を行ってきた。今回、福部地域未来プランができ、引き続き要望項目を設けている。最近は南北線の動きも活発になってきており、継続して新たなインターチェンジの設置については要望していきたいと考えている。

鳥取砂丘オアシス広場の整備について

旧福部村時代に鳥取県の道路付帯施設として、平成4年から6年度に整備された建屋やトイレ、東屋などは30年が経過し老朽化が見られる。また、グラウンドゴルフやマラソン大会など、イベント開催時のトイレ利用等については、改修及び再整備について要望を考えている。

6 閉 会